

いち市民ボランティアの思い出

2・5・28

10年ほど前に定年を迎えた。自由に使える時間が大幅に増えるが何をしたらいいんだろう。元気なうちは、なんらかの活動を続けていくことが健康維持の鍵になると思い、興味を持ったものは何でも試してみることにした。

そんな折、トレイルレース大会の現場に出会った。どのスポーツでも言える事だが年齢や性別を問わず自己の限界に挑む姿は素晴らしいと思う。

それから間もなく、これからトレイル大会を立ち上げようとしている市民団体を知ることになる。聞けば、荒廃した山野の復活や地域の活性化の一助を目的にした有志の集まりだと言う。

すでに開催に向けた活動が始まっていた。トレイル競技の内容は無知であったが、山野の探索は以前から興味があったので早速市民ボランティアとして同行をお願いした。

スタッフはコースの開拓と設定、倒木撤去と崩落個所の修復、表示板設置等々のコース環境づくりに奔走した。また、事務局は、開催に必要な資材の取り揃え、関係団体や機関への協力依頼、各種の規定や開催に必要な資料作り等々で大会前日まで煩雑を極めていた。

迎えた第1回(プレ大会)の当日は、緊張の中にも手作りの雰囲気は漂い、こじんまりとした和やかさがあり安心した。しかし、競技参加者はあくまでも自己との戦いである。

ゴールを目指し限界に挑む姿は沿道で観戦する者やスタッフに感動と勇気を与えてくれた。あらためて大会の素晴らしさを痛感した。

課題は残ったが、大会は無事終了しスタッフ一同は安堵感と達成感を味わう事ができた。その後は回を重ねる毎に内容も充実し今日に至っている。9回大会は中止となって残念だが、今後もボランティアの一環として出来るだけお手伝いしていきたいと思っている。